

Nursing Now!

2020 年を盛り上げるキャンペーン

『看護管理』誌が創刊 30 巻を迎える 2020 年は、近代看護を確立したフローレンス・ナイチンゲールの生誕 200 年であり、国際的な「Nursing Now」(ナースィング・ナウ) キャンペーンの最終年でもある。世界の看護職によるソーシャルアクションと言える同キャンペーンについて、その背景や日本における展開を紹介する。(本誌編集室)

看護への関心を高め、看護職の地位向上を目指す世界的運動

「Nursing Now」キャンペーンは、看護への関心を高め、看護職の地位向上を目指す世界的な運動で、2018 年にスタートした。きっかけとなったのは、英国の「グローバルヘルスに関する議員連盟」が 2016 年に出した報告書「トリプル・インパクト」。

「トリプル・インパクト」は、医療人材の半数を占める看護職の発展は、国連総会が採択した「持続可能な開発目標」(SDGs) 17 項目のうち、「健康と福祉(目標 3)」「働きがいと経済成長(目標 8)」「平等の向上(目標 10)」の 3 つに直接的に貢献すると指摘。すなわち、看護職が増え力を付けることは、健康の改善、経済成長の強化、ジェンダー(性差)の平等という、より広範な三重の影響をもたらすと結論付けた。

この内容に WHO(世界保健機関)や ICN(国際看護師協会)等が賛同したことで、世界規模の「Nursing Now」キャンペーンに発展。2018 年 2 月に英国でキックオフイベントが開催された。キャンペーンの期間は、ナイチンゲール生誕 200 年である 2020 年末までの 3 年間。

英国王室のキャサリン妃は開始当初からこのキャンペーンに賛同し、積極的な支援を行っている。その後もこの動きは各国に波及し、世界 89 か国(2019 年 6 月現在)でさまざまな活動が行われている。

図 キャンペーンロゴマーク



また WHO では、2020 年を「看護師・助産師の国際年」に制定。5 月の WHO 総会を前に、助産に関する報告書「State of the World's Midwifery 2020 Report」(前回は 2014 年)に加え、看護に関する初めての報告書「State of the World's Nursing Report」を発表する予定である。

日本での動き ——「看護の力で健康な社会を！」

日本では、日本看護協会と日本看護連盟が中心となって 2019 年に「Nursing Now キャンペーン実行委員会」を設立。30 の参加団体と 15 の後援団体(他にオプザーバーとして厚生労働省)を得て、同年 5 月 11 日にキックオフイベントが開催された。参加団体はそれぞれが独自の取り組みを進めながら、情報共有も図っている。

このうち日本看護協会は、「看護の力で健康な社会を！」をメインテーマに活動を展開中(図、表 1)。このキャンペーンを、国内の看護職が丸となって社会のニーズに取り組む機運にしたいとしており、既に日本看護協会のイベントなどさまざまな機会を活用して認知度の向上に努めている。

2020 年は、ナイチンゲール生誕 200 年の他に、日本で「看護の日」(5 月 12 日)と「看護週間」が制定されてから

表 1 Nursing Now キャンペーンの目標

- 1 看護職の教育・専門職開発・雇用条件等への財源確保
- 2 効果的・革新的な看護実践の普及
- 3 保健医療政策への看護職の影響拡大
- 4 リーダーの職位につく看護職の増加
- 5 政策実現に向け政策・意思決定者へのエビデンス提供の拡大

日本看護協会プレスセミナー資料、2019 より

表 2 「Nursing Now: 看護の力で未来を創る」の概要

名称 「看護の日・看護週間」制定 30 周年・ナイチンゲール生誕 200 周年記念イベント「Nursing Now: 看護の力で未来を創る」
日程 5 月 8 日(金)・9 日(土)
会場 ザ・プリンス・パークタワー東京(東京都港区)
参加費 無料
プログラム(仮)
・「看護の日・看護週間」30 周年記念式典
・Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン
・第 10 回「忘れられない看護エピソード」表彰式

*詳細は今後日本看護協会ホームページで告知予定。

30 周年の節目でもある。日本看護協会では、これらを記念した「Nursing Now: 看護の力で未来を創る」と題するイベントを、5 月 8・9 日に東京で開催する(表 2)。このように、2020 年は看護関連のトピックが集中する 1 年になりそうだ。編集室としては、同じ年に『看護管理』が 30 巻の節目を迎えることも喜ばしい。